

社会人基礎力協議会News



第21号 2026年4月27日発行

1 2025年度 社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会開催

グランプリ委員会

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」は、大学等での取り組みで社会人基礎力に関して大きく成長した学生らの表彰を通じて、効果的な育成事例を多くの方々に周知する趣旨で開催しています。2025年度のグランプリも協賛企業の皆様、各大学等関係者の皆様のご協力を得て開催しました。全国から総数27チームがエントリーし、6地区での予選大会を経て、各地区の最優秀賞を受賞した6チームが集い、3月12日に全国決勝大会を開催しました。

開催概要

日時・場所： 2026年3月12日(木) 12:50～17:35 拓殖大学文京キャンパス E館1階 後藤新平・新渡戸稲造記念講堂
審査員長： 明治大学商学部 講師 久米 信行氏
審査員： NECフィールディング株式会社 HR部門マネージングディレクター 中島 大輔氏
株式会社日経HR コンテンツ事業本部長 渡辺 茂晃氏
株式会社ウチダ人材開発センタ 代表取締役社長 吉永 裕司氏
株式会社学研ホールディングス サステナビリティ推進室 室長 代田 雪絵氏

全国決勝大会結果

社会人基礎力大賞は、松山大学経済学部チームが受賞しました。大学として毎年メンバーを募集し実施してきたiProject!に参加した学生チームが、真の主体的な活動を求めてもう一段飛び出し、自分たちが新たにプロジェクトを開始した事例でした。オリジナル商品を開発し販売する起業を目指した活動で、内発的動機、強い主体性こそが成長の大きな要因と気づかされる内容でした。社会人基礎力準大賞1チーム目の拓殖大学は、国際日本語学科に通う学生たちが、八王子市から委託を受け、日本語支援が必要な外国人児童への日本語教室の運営に関して運営主体として関わった事例でした。カリキュラムを考えるだけでなく、個別の児童の事情に応じた指導を考える必要に遭遇するなど、自分たちが運営主体となる状況が成長を大いに促した事例でした。準大賞2チーム目の熊本学園大学は、学生視点ならではの就活イベントの企画運営の事例でした。企画立案の検討段階で、学生らはモチベーションの低下や、そもそもゼロとして始まったことから主体性、当事者意識に課題がありました。先生からのアドバイスで「すごい会議」と呼ばれる手法を取り入れたミーティングを行いました。それは、話し合う内容を徹底的に自分事化するというものです。その結果、メンバー各自が自分のなすべきことを自分で考えることができるようになり、迷うことなく自らやるべきことを決めて実施するまさに主体的な活動ができるまでに成長した事例でした。

地区	学校名	テーマ名	大会結果
北海道	函館大谷短期大学	理不尽な怒りへの対応に関する概念モデルの検討 ー心理学的視点と現場実践の統合ー	
東北・関東	拓殖大学	日本語支援で未来をサポート～多文化キッズサロン「ひまわり」の活動を通じて～	社会人基礎力準大賞
中部	中部大学	学生主体の標準化教育	審査員特別賞
近畿	大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部	駅で始まる国際交流ーJR関西空港駅ボランティアの現場からー	
中国・四国	松山大学	前代未聞の松山大学発ベンチャーを目指して～挑戦を通して育った社会人基礎力～	社会人基礎力大賞
九州・沖縄	熊本学園大学	「ときめきキャリアフェス」産学連携プロジェクト ～通常の就職活動では得られない機会を届けるイベントを創る～	社会人基礎力準大賞 協賛企業/団体賞



全国大会は、6年ぶりに対面で会場に参集し開催しました。参加者の移動負担などの懸念がありましたが、全ての地区代表チームより、是非会場参加したいという意向をいただき、全チームの会場参加で開催できました。遠方の地区からの参加チームには、交通費の一部ですが支援をいたしました。これらの費用へご協力いただきました協賛企業のみなさまには、厚く御礼を申し上げます。

今後も予選大会の開催方法は地区実行委員会ごとの判断としますが、オンライン開催は参加者の移動負担の面で利点があり、概ねオンライン方式になる見通しです。本会としては、全国大会の会場開催を継続していく方向性ですが、実現できるよう、広くみなさまよりご支援をいただけるよう努力してまいります。

社会人基礎力の「成長」をどのように評価するか

社会人基礎力の重要性は広く認知されており、大学等のカリキュラムでの社会人基礎力の醸成が期待されています。それを「成長」という言葉で評価しています。この成長の審査方法に関して、当委員会では常に模索しています。審査では、発表者自身の「発揮した」「成長した」という主観的な結論だけでなく、その結論に審査員が納得できる具体的なエピソードによる説明を求めています。そのために自分たちが行った活動を振り返り、そこでの気づきを言葉にしてみることが大切です。

社会人基礎力は、単なる作業能力では解決あるいは達成が困難な状況でこそ発揮される力であり、それが成果に結びつくというイメージです。「これが社会人基礎力の発揮である」といえる明確な指標や定義ができるかはなお研究課題であり、多様な発揮の姿があると思われます。どのように困難な取り組みだったのか、克服や達成につながった社会人基礎力の発揮へどのような自覚があるかを言葉にすることで、そのイメージがより多数の事例の蓄積と共に明瞭になっていくと考えています。

困難な状況とその克服という事例では、「発揮」は自己認識でき審査員も納得しています。一方で、成長の評価は容易ではありません。本大会に集まる事例は、授業等の広義の教育プログラムの取り組みであり、教員を含めた外部の協力者が関わっています。克服や達成が本人の力だけではなく、支援や指導によって実現されていることも考慮する必要があります。つまり、個人の能力による発揮であるのかを区別する視点が必要です。

伴走者、支援者の支援を得て、それまでできなかったことができた、これも発揮です。それに対して成長とは、その次の段階、すなわち支援者や伴走者がいなくても自らの力で同様に発揮できる状態に至ったことではないかと考えられます。成長に至るまでにはいくつかの段階が想定されます。例えば、発揮を経験し何をすれば良いか気づいた段階、次の機会では自ら克服・達成できると見込まれる段階、さらには、取り組みの中で自己認識による再挑戦のループが回り、既に自ら克服・達成できるようになった段階などです。

以上から、成長の評価は、振り返りを通して自らの行動や判断を捉えなおし、それを将来あるいは次の機会に再現できるかという観点が必要であると考えます。本大会の開催を通して、社会人基礎力の成長のイメージも参加者からの多数の事例の蓄積とともに、より明瞭になっていくことが期待されます。

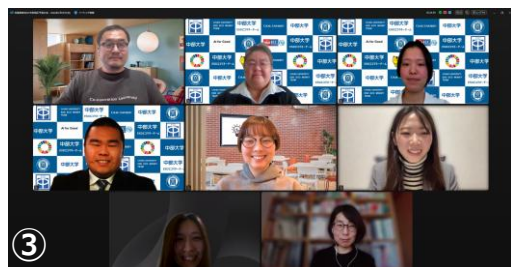
発表内に見合った発表時間の見直し

本大会の発表で求めている内容は多岐に渡っています。「授業の位置づけ（教員）」「取り組んだ内容」「社会人基礎力を発揮したエピソード」「社会人基礎力の成長の実感とその要因分析」「今後の目標」です。そのためこれまで審査員からの質問時間を延長してきましたが、今大会では、発表時間の方を3分延長し13分とし、審査員からの掘り下げとして位置付けた質問時間を短縮し7分と

しました。審査員からは丁度良い時間であったと評価を受けています。一方で、プレゼンの組み立てが多様であり、教員発表の内容も要点が多様であり、そのことが審査のしにくさに影響しているとの指摘がありました。大会側で、どこまでプレゼン手順や内容を指定するかは、慎重な議論が必要と考えています。今後、発表の構成方法がさらに開発・工夫されていくことが期待されます。その一方で、内容としてお願いする事項は、より明瞭にしていくことが必要と考えています。

（委員長 市川純章）

大会の情報は下記QRコードからご覧いただけます。全国決勝大会動画の視聴を希望される方は、下記URLの「閲覧申込み」ボタンからお申込ください。（2027年3月中旬まで）



<地区大会の様子 中国・四国地区は対面、それ以外はWebexミーティングに発表者・関係者が集合>

①北海道地区 ②東北・関東地区 ③中部地区 ④近畿地区 ⑤中国・四国地区 ⑥九州・沖縄地区

2025年度を振り返って

隔月のセミナー（勉強会）5回と8月の年次大会をオンラインにて開催しました。各セミナーでの意見交換および質疑応答は予定の時間を超過し参加者の熱意が感じられるものとなりました。

大川氏の講演は、仕事も人生も自分たちで楽しくするために施策オーナーや推進者が一番「WAC-WAC」していること、自分の意志を言語化し具体的な行動に移すことをご自身の経験を通してお話しいただきました。渋谷氏は幸運な偶然（セレンディピティ）を生むための行動は多様な価値観と人とのつながりと好奇心および積極的な姿勢、行動量を増やしてチャレンジすることであると話しされました。山田氏は、大人の学びはアンドロゴジーであると説き、それは知的好奇心を持つことであり、自分の経験自体が資源であり内発的なものであるとお話しいただきました。永島氏は令和のマネジメントには3つの報酬（意味、関係、成長）を組織と従業員間で共有することが重要であり、関係性をつくることであれば組織は変わることとお話しされました。瀧氏は楽しむこと、楽しんでいる人を増やすことを目的に働く場・学びの場・コミュニティ・自然環境を軸に企業や自治体および学校を共創しながら組織変革と人材育成と地域活性化に取り組んでいる実績についてお話しいただきました。

各講演者の姿勢および取り組みから社会人基礎力との関係性を改めて知り、その必要性・重要性を再認識することになりました。

オンラインセミナー各回の主なテーマと講演者

- 第1回 「ハミダシのススメ～越境×WILLで鍛える社会人基礎力～」大川陽介氏（株式会社ローンディール 最高顧客責任者）
- 第2回 「偶然を味方にするキャリア形成」渋谷 一夫氏（宮城大学 キャリア・インターシップセンター長 事業構想学群教授）
- 第3回 「人生100年時代の学び、自分を超越する未来へ」山田 崇氏（株式会社ドコモgacco Chief Learning Officer）
- 第4回 「社会人基礎力の再定義 -効率を超えて、関係性から生まれる生産性へ-」
永島寛之氏（トイトイ合同会社 代表社員）
- 第5回 「楽しむ力で未来を変える～ 学びの原点は『楽しい』：自己理解から始まる社会人基礎力～」
瀧 信彦氏（エンゲージメントパートナーズ代表）

2026年度に向けて

経済産業省が2018年に「人生100年時代の社会人基礎力」と再定義してから8年が経過し、その後さまざまな検討を経て、文部科学省「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン」（2024年3月）、厚生労働省「職場における学び・学びなおし促進ガイドライン」（2025年4月）が発表されました。

これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりのなかで求められる力とは何か。2026年度は、特に「考え抜く力」に注目し、主体的に考え行動に移す実践事例を学ぶ場を提供して参ります。
（委員長 渡邊明男）

4 2025年度 研究委員会活動報告

研究委員会

2025年度を振り返って

研究委員会では、社会人基礎力の研究面での普及促進や活性化を目的に、ニュースレターや機関誌の発行、学修交流研究会を展開しております。今年度は、年次大会で研究動向について改めて共有する機会を設け、学修交流研究会も今年度はじめて地方での開催を実現しました。今後も、社会人基礎力を専門に研究する研究者は非常に限られている状況が続いていますが、企業の実践事例の蓄積など、多面的なアプローチでの研究活動を展開していきたいと考えております。

【主な活動実績】

2025年 7月	ニュースレター19号 発行（2025年度 協議会方針他）
2025年 8月	年次大会での研究委員会企画の実施
2025年 8月	2025年度 第1回社会人基礎力学修交流研究会
2025年11月	ニュースレター20号 発行（2025年度 年次大会レポート他）
2026年 2月	2025年度 第2回社会人基礎力学修交流研究会
2026年 3月	機関誌『社会人基礎力研究』第7号発行
2026年 4月	ニュースレター21号 発行（グランプリ大会報告他）

社会人基礎力学修交流研究会の実施

2025年度は、8月に福山（福山駅カンファレンス）、2月に東京（拓殖大学）で開催しました。

開催の詳細は次ページをご参照ください。

協議会機関誌「社会人基礎力研究」とニュースレターの発行

2025年度はオンラインでの発行といたしました。当協議会の機関誌は、教育現場からの問題提議やビジネス界からの現状報告など、研究者の方、実務家の方、教育業界の方等の多様なバックグラウンドを持つ皆様による「学際的な交流」を大切にしています。教育現場からの切実な問題提起やビジネス界の生きた報告など、異なる視点により、社会人基礎力の議論はより深まります。「自分の分野の話では…」と、ぜひ多角的な視点からの投稿をお寄せください。皆様との共創を楽しみにしております。また、2025年度も3回のニュースレターを発行いたしました。バックナンバーは協議会HPからも閲覧できますので、過去のニュースレターも是非ご覧ください。

2026年度に向けて

2026年度はこれまでのニュースレターや機関誌の発行、学修交流研究会をはじめとする事業に加えて、他の委員会等と連携し、民間企業での実践事例の収集や広報活動を展開していきたいと考えております。
（委員長 栗田るみ子/黒田友貴）



リカレント委員会では、2か月に1回のペースで定期的にオンラインセミナーを開催し、社会人基礎力への理解促進、普及に努めています。12月および2月に開催したオンラインセミナーについてご紹介します。12月は分断型組織との向き合い方と当該組織に架け橋を架けることが解決策のひとつであるとの強い思いから組織改革を実践して来られた講師のセミナーです。2月は「楽しむ」ことこそ最強であると信じ、企業、学校、地域活動のエンゲージメント向上に尽力しておられる講師によるセミナーでした。来年度もすべての世代に共通である社会人基礎力を基に広範囲な講師をセミナー（勉強会）にお招きする予定です。より多くの皆様の参加をお待ちしています。

2025年12月オンラインセミナー

日時：2025年12月13日(土)10:00～12:00 (Webex オンライン開催)

テーマ：「社会人基礎力の再定義 -効率を超えて、関係性から生まれる生産性へ-」

講師：トイトイ合同会社 代表社員 元ニトリHD理事・人事責任者 中央大学客員研究員 永島 寛之氏

主旨：これまで組織の分断は克服すべき障害と考えられてきたが、今は組織の分断を活かす時代にきている。価値観や役割そのものの違いは前提であり、その間に架け橋を架けることが組織運営の本質である。令和の組織マネジメントには多くの架け橋が必要である。社会人基礎力を発揮できる環境を組織が従業員に先渡しすること、付加価値を見出すために社会人基礎力が発揮される環境と方向性を組織と従業員と共有することが重要であると考えます。

2026年2月フォーラム

日時：2026年2月21日(土) 10:00～12:00 (Webex オンライン開催)

テーマ：「楽しむ力で未来を変える～ 学びの原点は『楽しい』：自己理解から始まる社会人基礎力～」

講師：エンゲージメントパートナーズ代表 瀧 信彦氏

主旨：「楽しいは最強である」を基本に、組織、学校、地域等でエンゲージメント向上に取り組んできた。自身のパーパスは楽しんでいる人を増やすことである。単なる一時的な娯楽ではなくポジティブな感情や深い充足感を生み出し心を元気にして人生を豊かにする状態こそが未来を動かすと信じている。

(リカレント委員会 波止由美)

7 研究委員会主催 社会人基礎力学修交流研究会 実施報告

研究委員会では、「社会人基礎力学修交流研究会」を2回、いずれも対面形式で開催しました。今年度は研究の活性化と実践をテーマに話題提供と事例発表、ワークショップを行ないました。また、第20号で詳報したように、第1回は、はじめて地方での開催となりました。今年度も対面での交流に重点を置いた企画となり、参加者からも大変好評な研究会となりました。2026年度も2回程度の実施を企画しておりますので、ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

第1回 社会人基礎力学修交流研究会

2025年8月11日(月・祝) 15:00～17:00

カンファレンス21 福山駅カンファレンス

① 話題提供(基調講演)

「アメリカにおける社会人基礎力の実践と展望
ーハワイ大学における挑戦と越境型インターンシップー」
ハワイ大学マノア校東アジア言語文学部准教授
長谷川敦志氏

② 懇親会(18:00～)

第2回 社会人基礎力学修交流研究会

2026年2月19日(水) 14:30～17:30

拓殖大学 文京キャンパス C館 514教室

① 話題提供(基調講演)

「企業研修における社会人基礎力の活用とその課題」
株式会社ウチダ人材開発センタ 開発・運営統括
ラーニングデザイン部ラーニングデザイン課 課長 日暮 薫氏

② ワークショップ・全体ディスカッション

(研究委員会 黒田友貴)



編集
後記



ニュースレターへのご意見・ご要望募集

2025年度 社会人基礎力育成グランプリ大会へのご協力ありがとうございました。次年度以降も、社会人基礎力強化の促進に寄与するべく、活動の活性化に向けて改善を図ります。このNewsでは大学や企業における社会人基礎力強化に役立つ情報を取り上げていきます。会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望などもお待ちしております。左記QRコードの協議会HP「お問合せ」フォーム、または、下記事務局メールへお気軽にご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

(担当：研究委員会 人材開発コンサルタント 山崎 紅)